

高塚遺跡

(第15次調査)

現地説明会資料



B区全景（北から）

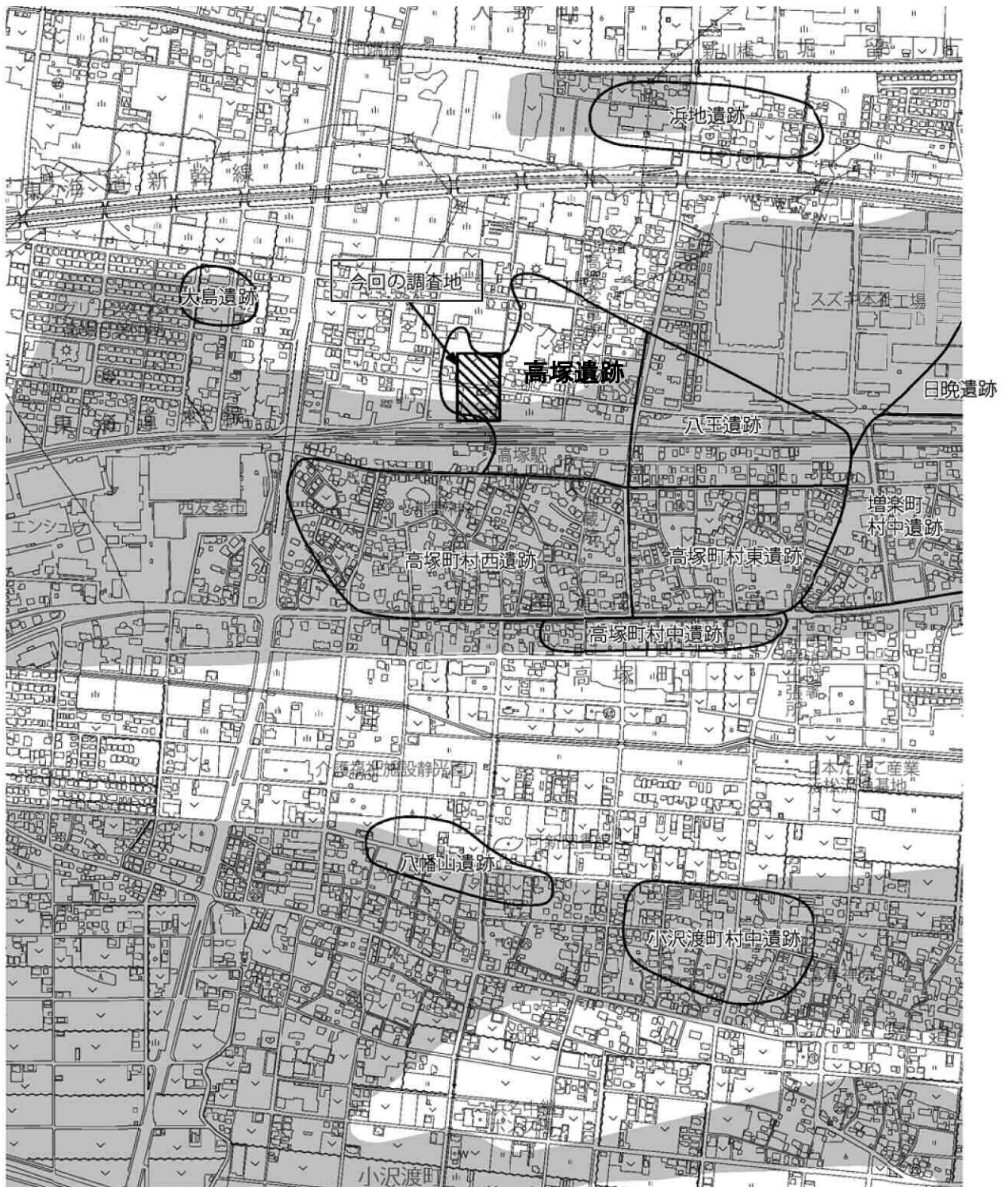
2016年7月23日

浜松市文化財課

■ 高塚遺跡ってどんな遺跡？

高塚遺跡は、浜松市南部の海岸平野に立地する遺跡です。古代～中世の遺跡と考えられてきましたが、2010年に駅北口付近で行われた発掘調査では、約5,000年前の縄文土器^{じょうもん}が出土したため、これまで海の中と考えられていた縄文時代の高塚地区が人の住める陸地だったことがわかりました。

今回の発掘調査でも、縄文時代中期(約5,000年前)の土器や、古墳時代終末期～奈良時代(約1,300～1,400年前)の須恵器、平安時代末期～鎌倉時代(約700～850年前)の陶器、戦国時代頃(約400～500年前)の土器など、高塚地区の豊かな歴史を示すものが土の中から発見されています。



※アミカケ部は砂堤列(微高地)です。遺跡の多くが砂堤列上に立地していることがわかります。



■ 発掘調査の概要

対象地 浜松市南区高塚町

期間 平成 28 年 4 月～7 月

面積 約 2,000 ㎡ (3 工区合計)

調査原因 高塚駅北土地区画整理事業

調査者 浜松市

(事業受託者: シン技術コンサル(株))



2010 年に出土した縄文土器

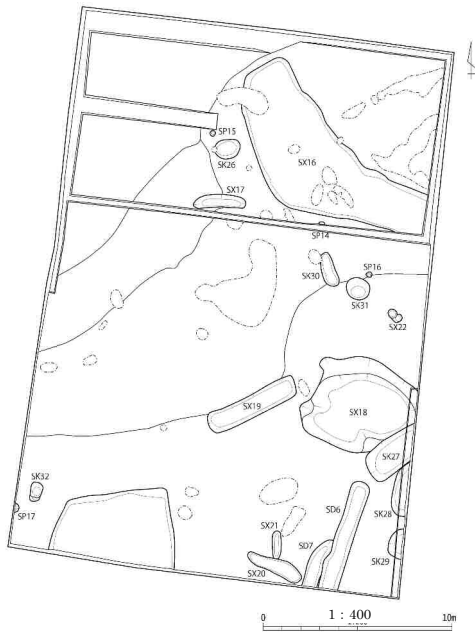


0 1:2500 100m

■ 調査の成果

A 区

調査区南側を中心に遺構・遺物が確認されました。北西部にかけては地形が低くなっており、水生植物の遺存体が土中に多く含まれていることから、湿地帯であったとみられます。



B 区

調査区南東部は地形が高く、近現代の開発によって、すでに遺構確認面は失われています。一方北西部は地形が低く、起伏に富んだ地形だったことがわかります。調査区北端では縄文時代の土坑が確認されています。



B 区出土縄文土器



縄文時代の土坑

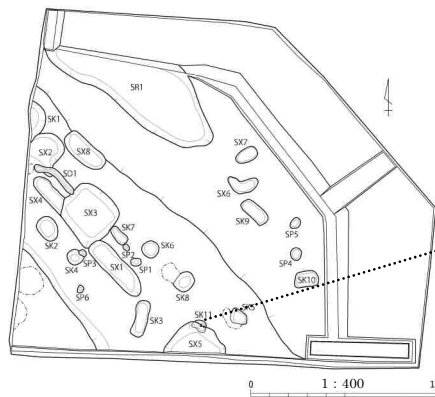
縄文時代の土坑

近世～近代頃の溝

C 区

2010年調査区に隣接しています。南西部の地形が高く、平安時代末頃の土坑などが確認されているほか、縄文時代、古代～中世の遺物が出土しています。

北～東側は低地となっています。



平安時代末頃の土坑



陶器の小碗

■ 調査からわかったこと

今回の調査では、明確に用途のわかる遺構は確認されず、出土遺物も大半が小破片でした。また、居住の場とすることが難しい低湿地の部分が多いことから、今回の調査地周辺は遺跡の端部であると考えられます。

しかしながら、縄文時代中期（約 5,000 年前）の土器をはじめ、古墳時代～戦国時代（約 400～1,400 年前）までの幅広い時期の遺物が確認できたことは、高塚地区で長きにわたる人々の営みがあった証拠として重要といえます。今回の調査成果が、今後の資料の蓄積とともに地域の歴史を明らかにしていく一助となれば幸いです。

《注意事項》

- ★決められた箇所以外の立入はご遠慮ください。また、道路を通行する箇所がありますので、車にご注意ください。
- ★撮影された画像等を公開する際には、他の来場者について人物が特定されないよう配慮ください。
- ★安全管理上、現地説明会以外の日に、無断で発掘現場へ立ち入ることはご遠慮ください。